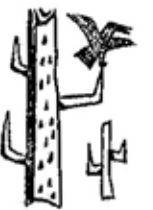


# やくわえ

## 不定期便一号



### 昭和四十八年度 第一回親睦旅行行わる

去る六月二十日に、日光国立公園第一の温泉地鬼怒川の鬼怒川温泉ホテルにおいて、親睦旅行会が行われた。当日は三人の先輩を始め、三人の新会員と二十数人が参加した。新緑に染まる中に意義深い一夜を過ごした。

六月の旅行はこのところ恒例となり、昨年は下田ビューホテルだった。東京都神道青年会は数百年の会員を有しており、その相互親睦をはかるために、毎年さまざまなレクリエーションが行われている。六月の親睦旅行会も新年度の事業がスタートした時期、新しい会員を迎えた時期に行われ、腹を割って話し合い、相互理解を深める一夜を過ごす旅行会である。

五月の中ごろから計画が練られ、伊豆、箱根方面に集中しがちなこの種の旅行を、今年は北の方面でということになった。鬼怒川温泉は鬼怒川の清流が深い谷を作り、東京からの交通の便も良く、多くの参加者の期待がでる。

六月二十日午後五時すぎ、それぞれ電車でまた自動車に到着した。鬼怒川温泉ホテルは当地でも随一のホテルであり、部屋から見る青みがかつた岩と激流の鬼怒川が印象的であった。六時すぎ三つの円テーブルを囲んで、懇親会が行われた。ゼンマイ、ワラビなどの

山菜料理、マスの川魚に舌鼓を打ちアルコールもすすむほどに、芸者が加わって一段と賑やかになった。芸者の演奏がすむと参加者それぞれに自慢の歌を披露した。

鬼怒川温泉は保養向きというよりは純然たる歓楽温泉である。懇親会終了後何人かは外出して大いに楽しまれた。部屋では日ごろの多忙な生活を離れて床に体を休め、雑談で親睦を深めた。

### 親睦旅行に参加して

六月二十日、鬼怒川温泉において神道青年会恒例の懇親会が開かれた。青年会の集まりで皆に会うのは楽しい。御当地自慢の「四川」と称する円卓料理が用意され、左党も右党も歪を重ねる毎に論が進み、口角吃を飛ばす頃には溪谷の夜も更ける。特筆すべきは、清酒、ビールその他洋酒が出されたことで、「ダルマ」の空瓶が何本か転がっていた。こんな事は過去に無かった、とは先輩の弁。麻雀好きが浮き沈みに一喜一憂し、多忙を極めた世話役の事業部長が、翌日から始まるおみやげ配りを夢に見、眠りが熟す前には夜が明けける。

省みれば、多数の参加を旨とする青年会として、親睦会とは言葉、先輩をはじめ、多数の出席を得られなかったのは如何なる理由によるのか。同時期に数々の重要な行事が連なり、重なった為もあるろう。しかし、別にその原因があるとすれば、吾々としては、それを究明する事もおろそかに出来ない。

梅雨時の、とにかく忙しい週であった。

大学の同級の人と言っていました。東京の芝生には立入禁止の立札がある。確かに芝生とは入ってはいけないところと思っていました。そこで境内に入れる芝生を作れたらと思ひ、社殿脇のわずかな砂利地に芝を植えようと思ひました。馬が走るところにも芝が植えてあります。

まず砂利をはがし、灰でもあればしきつめます。油粕をまいて土をたっぶ

りとかぶせませす。その上に芝を張っていきます。芝にはいろいろあります。安い物では緑の美しい絨毯になります。最も一般的な高麗で一坪千円位です。一坪は四十枚のこと。一枚は約三八cm×約一五cmで、これを三〇枚位の間隔で張っていきけば一坪が張れるはずで、芝と芝の間に凹地がでないように、土をたんねんに入れて、生えそろうのを待ちます。刈り込みと除草を忘れてはいけません。



## 夏季

### 禊修練講習会行わる

恒例の禊修練講習会は今年も去る七月十九、二十日の両日武州御嶽山に於て行われた。神社庁の後援のもと、道彦に世田谷の中原先生助彦に北区の八木先輩を得て、参加者は約三十名であった。

十九日午後、開講式に始まり、参加者一同真剣に神拝行事、禊祓行事に取り組んだ。今年には大学へ入ったばかりの人もあり、昨年より平均年齢がグッと下った感じである。お滝への道は前夜の雨で道がぬかっていたにもかかわらず、かなりのハイペース。夕食後の討論会も活発な話し合いがなされた。神職一人一人が現状を把握し、生活に追われている現実を乗り越え、神職として実力を養うこと、そして教化に真剣に取り組むよう努力する。毎日このようなことを考えて生活したい、などの意見もあり、皆これからの神社について活発に発言した。

二十日朝五時半、肌寒い中お滝へ出発。十二分に身振を行った。終禊祭の後、修了証を手渡され、各人何かしらの収獲を得て散会した。

(小俣 宗昭)

建武中興、明治維新と我々は種々な試練を重ねつつも、万世一系の天皇を中心として生成発展を続けてきました。しかし先の敗戦で未曾有の困難を受け、以来未だヤルタ、ボツダム体制の日本は、終りを付けていない。現在一応安定した社会情勢の様に見えるものの、裏を見れば明治維新前夜よりも、一層深刻に祖國を見つめねばならないと感ずる。維新の志士達がその情熱を傾け、命を捧げ、我々神職は持たねばならないと思ひ、我々神人合一の靈境に入るを以て真髓とする。その懐に、我々青年神職はすすんで参加すべきと思ひ、健かなる祖國復興のため、青年会の主体する禊に参加する。そして自己反省を以て誠を養い、清明心を以て神明に奉仕し、勇猛心を以て社会の善悪に対処していきたい。

(渡辺 和寿)

## 告知板



- △ 国学院大学九十周年記念事業に関する要望の件
    - 1 建学の精神に基づき国学院全学生に対する神道精神の昂揚と、神道科の内容充実を図りたい。
    - 2 神道科専用談話室を渋谷校地の出入しやすい所に、神道資料室と隣接して設置する様強く望む。
    - 3 若手神道学者養成資金を本事業計画に加え、資金の割愛を望む。
 以上三点を庁長を始め神社庁役員同席のもと強く要望。その結果次の通り即答を得た。
    - 第一の点に対し、大学当局としてよく研究を重ね着処する旨返答があった。
    - 第二の点に対し、神道人の満足が得られる様充分配慮し設計段階に於て提示検討の機会がもたらされる旨解答があり、また現在閉鎖された神道資料室も、以前より充実したものを談話室の隣りに設け、伊勢神宮、明治神宮より借用してあった資料も、新室完成後再度借用する手はずになっている。
    - 第三の点に対し、事業計画に加えられていない為、多くの資金を割愛することは非常に困難であるが、他に行われている奨学金とからめて充分検討する。
 以上の通りであるが、我々はこれらの事を一ヶ月以内に文書でご解答いただく様望み閉会となった。
  - △ 五月三十日 全国神道青年協議会役員改選される。会長、福島県心清水八幡神社宮司 戸内康雅氏。都神青年会より副会長 森田義則、理事 北川正保、常任理事 滝実、蔵重命史、小泉朋昭、中田昌之、事務局長 中田昌之 各氏選出される。
  - △ 昭和四十八年三月の臨時総会に於て、青年会会費改正される。年間 貳千円
  - △ 神道青年協議会により「心のふるさと」といふ氏子向けパンフレット年一回発行。一部五円。申込は東京都神社庁教化部まで
  - △ 囲碁同好の志を求む
- 連絡先 副会長 松本美昭(大田区)まで

始めての雅楽を奉仕して

浜中憲生

去る六月二日、東京都神社庁春の大祭に伶人の一人として御奉仕し、無事お祭りが執り行なわれ安堵しました。思えば去年の九月から雅楽の講習を始め十ヶ月、庁長以下多数の参列者の方々の前で雅楽を奏するにはまだ未熟すぎ、敬業なるお祭りの雰囲気を感じてはと心中心配してしまいました。しかし心配していた様な事もなく盛大の中にお祭りが終了し、終えて後皆様よりお任せの言葉等聞き伶人一同今後一層の努力を誓い合いました。

新入会員紹介



小野貴綱 台東区 小野照崎神社

今年国大を出て神青年の一年生。神青年のBになるまで約二十年という歳月がある訳です。私でも何か一つはお手伝い出来そうに気がしますが、東京の田舎ッペです。何事も一から御指導して戴いて、青年会々員の名に恥ない青年神職になりたいと希って居ります。

北川憲史

大田区 雷ヶ谷八幡神社

若年ゆえ、まだ右も左もわかりませんが、先ず第一に神社関係、氏子の方々の融れ合いを考え、活動は青少年に神社又郷土愛を認識させたいと思います。現在では核家族がふえ、郷土を愛する事がうすらいできている事は事実ではないでしょうか。この事を重要な問題として、氏青関係、特に青少年と神社のつながりを考え、活動していきたいと思えます。よろしく御願ひいたします。

大野政時

板橋区 北野神社

私はこの度、北野神社社直を拜命致しました。未だ学生の身分で、神社界に付きましては尙未知な事のみでございますが、せっかく青年会に加入させて頂きましたので、今後、皆様に御教導を蒙り、神社信仰興隆発展の為努力してまいりたいと思えますので、よろしく御願ひ申し上げます。日二十九年生れ



榎本清一 板橋区 諏訪神社

私は、父の後を継ぎ、諏訪神社外四社の社直に任命されました。此の度青年会に入会させて頂きました。未熟な者でございますので、今から何かと皆様に御指導いただきまして、神徳の宣揚の為に努めてまいりたいと思えますのでよろしく御願ひ申し上げます。日二十八年生れ

宮崎重広 渋谷区 明治神宮

神職家庭に育ち、縁あって明治神宮に実修生として御奉仕し、四年間の大学生活を代々木の社と国学院の学窓に過しました。実修生活で得られた事は多大であり、故に出仕としての御奉仕にも大なる意義があります。外患内憂の社会状況の折、神道人としていかにあるべきかを熟考し、「井の中の蛙」にならぬよう外を見つめ、よく知り、今後尚一層敬神生活又、神道的精神の涵養に努めるべく確固たる信念を持って、邁進したいと思えます。

長倉 樹 渋谷区 明治神宮

慶応大学(国史)在学中は神社の仕事は会社勤務の片手間程度にやればよいのだろうと考えていた。卒業も間近に近づいた時、一つの問題に直面した。それは「現代において、あまりにも精神文明が軽んじられているのではないか」ということであった。それを解決する為には日本の精神的中核である神道を学ぶべきしかないと思付き、国大の神道学専攻科に学ぶ決心をした。この気持は明治神宮に奉職してからも増々強くなって来ている。今後神への御奉仕を通じ自己を高め人々に微少なからも神道の精神を教へ伝える事の出来る人間になりたいものである。

小林保男 板橋区常盤台天祖神社

昭和四十八年三月十日付で社直になりました。が、国学院大第六期史学卒、神職の資格は三十四年三月に取得しています。三十六年四月東京大神宮に奉職するも、教職を志したため一ヶ月で退職し、現在は板橋区立向原中学校事務主事として勤務しております。日曜祭日等、父を手伝うため「たまねぎ」的存在ですが、既に三十五才青年から中年に

むかっています。

しかし、神職としては赤子同様です。よろしくご指導くださる様お願いいたします。

ほんほん

河出書房新社「こどもの四季」

私は昭和二十二年生れ。戦前のことなど知る由もない。その私でさえこの本に書かれている風物、遊びの多くを知っている。大変なつかしく思うし、現代の東京にはもう見られないことを改めて痛切に思う。ついこの間まで目前にあったはずの「ささ舟、べいごま、紙芝居」忘れてはいたがもう一度してみたい。「あやとり、竹馬」などが、滝平二郎氏のきりえと加太こうじ氏の語りで、あさやかに思い出されてくる。子どもに昔の遊びはこりだ

ったと話したり、手作りのおもちゃで遊ばせたり、夢のある本である。

読売新書「おまつり時刻表」

最近の祭は経済的な理由、若者の祭に対する関心が薄らいだこと、過疎で若者がいなくなつたことなどで、廃止されたり衰退したりしている。しかし一方では観光ブームのつたりマスコミの宣伝が行届いたりして、盛大になつていく祭もある。一つ一つの祭について、それが昔に比べてどう変化したのか、盛んになつたとは言え何か欠けているものがないのか、真剣に考察の必要があると思う。この種の本を机上の本として、多くの祭を見られるように、またその祭に参加するように心がけたいと思う。

編集後記

高校野球を見ていていつも楽しく思いつ事がある。もう七・八年になるろうか。一人の制服を着けた高校生が「お守り二十体戴けませんか」と社頭に来た。「二十体もどうするの」とたずねると、「戴いたお守りをユニホームにぬい付け甲子園に望むのです」と云われた事で、今もテレビを見、彼等も産土様からお守りを受け、どこかに忍ばせ、苦しいにつけ、楽しいにつけ心の寄り所とし、母夜、郷土の為、一生懸命活躍している姿は実に美しく、頼もしい。(倉光)

八月の半ばになるとそろそろお祭りのシーズンである。秋風が感じられる中、緑日の露店に行くのも楽しい。ところで最近針金細工が見られなくなった。珍らしくなつたものは他にもあるが、これだけは全く見られない。見つけたら是非教えてください。購入したいものです。初めての不定期発行で不慣れなことが多く、良い出来とは言えません。この次は、もっと楽しいもの、おもしろいものにしたと思います。(千村)

昭和四十八年八月二十日発行  
東京都神道青年会  
東京都港区元赤坂二一三  
東京都神道青年会  
東京都神道青年会  
電話(408)二三六一・九二七七